

# 令和3年度第2回酒田市総合教育会議

日時：令和3年11月8日（月）

午後1時30分～午後3時30分

場所：酒田市役所7階 703会議室

## 次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 協 議

- (1) 本市の教育を取り巻く諸課題について
  - ・酒田市小中一貫教育ビジョンについて

(2) その他

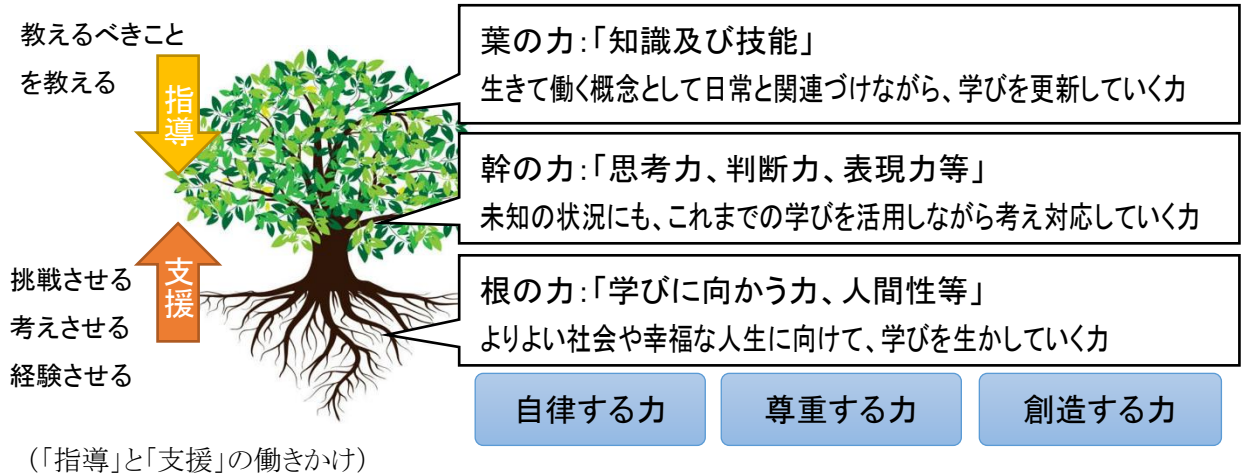
4 閉 会

## 酒田市小中一貫教育ビジョン R4~6 (案)

### ◎教育目標と目指す人間像

- ◎学び合い ともに生きる 公益のまち酒田の人づくり
  - 自ら学び、考え、時代の変化に対応できるたくましい人
  - 自分と他の人を大切にし、多様性を認め支え合う人
  - ふるさとの自然・歴史・文化を愛し、公益の心でこれからの社会を担う人

### ◎つきたい力：酒田市「まなびの樹」



### ◎9年間を貫く「まなびの軸」

- 中学校区ごとに「課題の分析」や「つきたい力」について協議し、目指す子ども像を共有するとともに、「重点教科」や「軸となる特色ある取組み」を検討し、系統性・一貫性のある9年間の教育課程を創り上げていく

一人一人に応じた学びの保障と協働的な学びの充実を図る視点

主体的な経験や他者とのかかわりから豊かな「根っこ」が育っていく視点

目指す子ども像の共有

9年間の教育課程の実施 系統性・一貫性のある

- 学力調査や生活調査などの結果を小・中学校で共有し、協働で分析しながら、課題やつきたい力、指標等を明確にする。
- 現状把握から明らかになった課題の解決に向けて、9年間で育みたい子ども像を明確にし、学校・家庭・地域で共有する。
- 教師が「育てる」から、子どもが「育つ」という共通理解のもと、他と比べるのではなく、一人一人の9年間の成長を評価・支援する。
- 「重点的な取組」(各教科・特別活動・総合的な学習・道徳及び防災教育やキャリア教育等)を中心に9年間の教育課程を系統的に編成・実践していく。
- 学校間の教員の交流を推進するとともに、小学校・中学校それぞれの指導の良さを生かしながら、一貫性のある学習スタイルを構築していく。
- 地域の特色ある資源・外部人材の活用や、一人一台端末等のICTの活用、異年齢交流を通じた体験活動など、子どもの学び・かかわりの機会を広げていく。
- 小中一貫教育の効果について指標等をもとに検証しながら、目指す子ども像の実現にむけての方策を検討・改善していく。

## 酒田市 根の力の評価指標と効果の検証（案）

◎評価指標 ※令和3年度全国学力学習状況調査（児童・生徒質問紙）より抜粋

### 1. 自律する力

- ①将来の夢や目標をもっている
- ②自分でやると決めたことは最後までやり遂げる
- ③自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる
- ④家で自分で計画を立てて勉強をする
- ⑤毎日、同じくらいの時刻に起きている
- ⑥授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる
- ⑦学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる

### 2. 尊重する力

- ①自分にはよいところがあると思う
- ②自分と違う意見について考えることは楽しい
- ③人が困っているときは、進んで助けている
- ④いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
- ⑤友達と協力するのは楽しい
- ⑥友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まできくことができている
- ⑦学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている

### 3. 創造する力

- ①人の役に立つ人間になりたいと思う
- ②地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある
- ③難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している
- ④今住んでいる地域の行事に参加している
- ⑤総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる
- ⑥国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ
- ⑦算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ

### ◎つきたい力の点数化

- |                  |    |
|------------------|----|
| ○とてもよくあてはまる      | 4点 |
| ○どちらかといえばあてはまる   | 3点 |
| ○どちらかといえばあてはまらない | 2点 |
| ○あてはまらない         | 1点 |
- 各項目 4点×7問＝28点で点数化

### ◎効果の検証

- ・令和3年度全国学力・学習状況調査の結果をベースに、経年の変化を比較して効果を検証する
- ・令和4年度から6年度まで、小4～中3を対象にアンケート調査を実施する。  
（グーグルフォームを活用。6～7月に年1回を想定）

### 1 調査の概要

- ◆調査日時: 令和3年5月27日(木)
- ◆調査対象: 小学校6年の児童と中学校3年の生徒
- ◆調査の内容

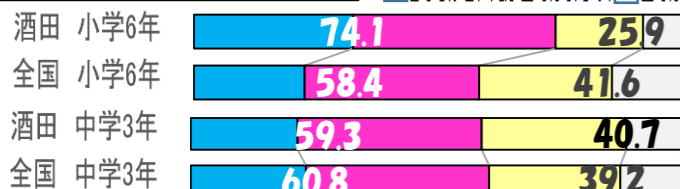
- (1) 教科に関する調査「国語、算数・数学」
- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能
  - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力
- など、調査問題では①②を一体的に問う。

- (2) 生活習慣や学習環境等に関する調査

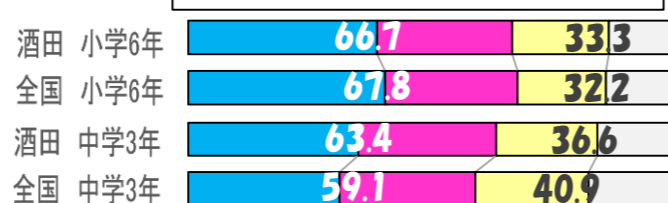
### 3 学習に関することについて

国語の勉強は好きですか

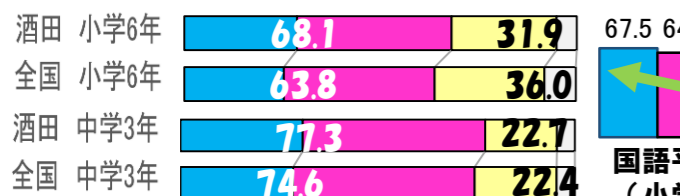
■当てはまる ■どちらかといえば当てはまる  
 □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない



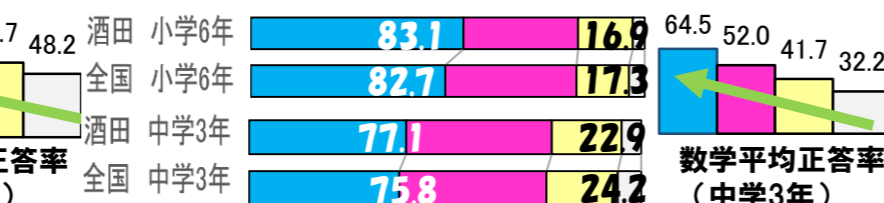
算数・数学の勉強は好きですか



国語の授業で目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり(中学:理由を明確にして書いたり)表現を工夫して書いたりしていますか。



算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あらかじめいろいろな方法を考えますか。



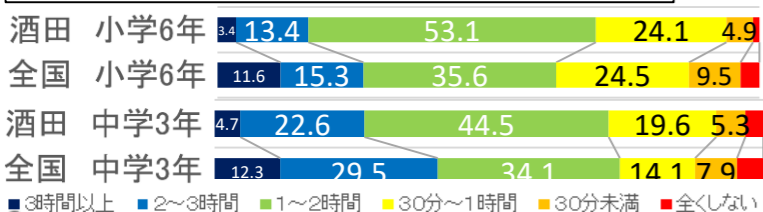
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。



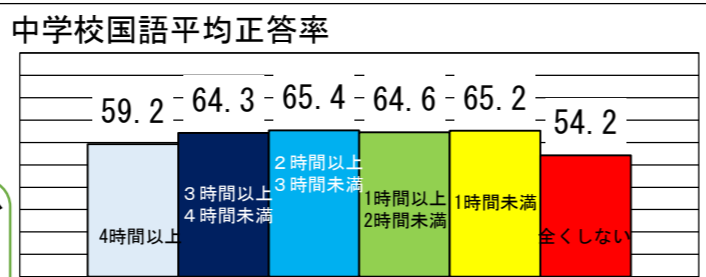
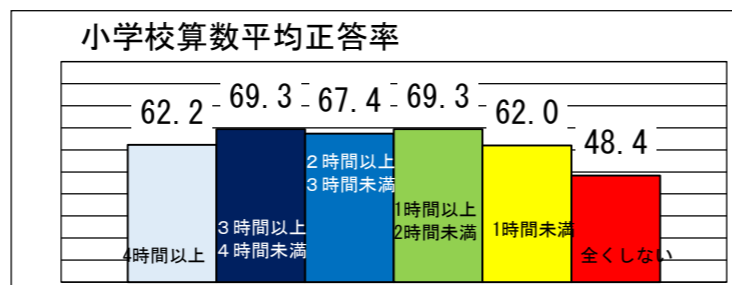
「自分の考えをしっかりと伝える」「あきらめずに考える」の回答と教科の平均正答率には高い相関関係がみられます。本市の児童・生徒はじっくり考えて取り組んだり、相手の話を聴こうとしたりする子どもが多く、学びに向かう力が育っています。

### 4 家庭学習に関することについて

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



全国と比較すると、学習時間は多いとは言えないのですが、家庭学習の時間の長さだけでなく、短い時間でも自分の課題を見つけ集中して取り組む、計画的に取り組むなど家庭学習の内容の質を上げていくことが力をつけるポイントになります。



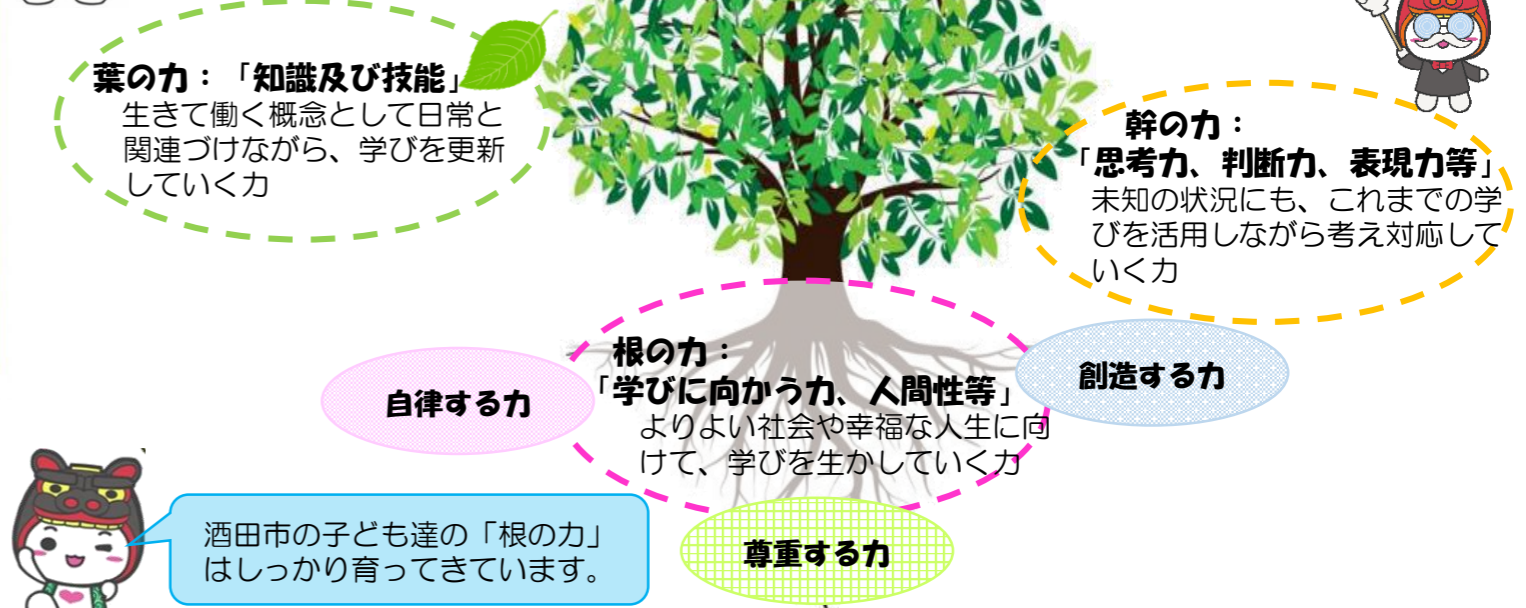
◆すべての教科で全国平均をやや下回っている。

### 2 各教科の平均正答率について

小6	全国と酒田市の平均正答率の比較
国語	全国平均正答率(65%)より約2ポイント下回る
算数	全国平均正答率(70%)より約3ポイント下回る
中3	全国と酒田市の平均正答率の比較
国語	全国平均正答率(65%)より約1ポイント下回る
数学	全国平均正答率(57%)より約3ポイント下回る

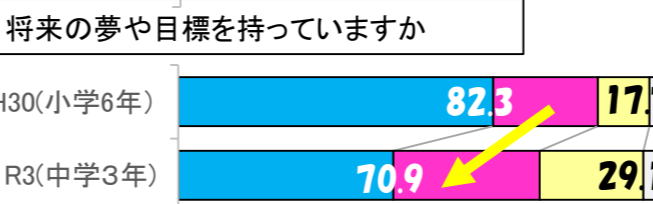
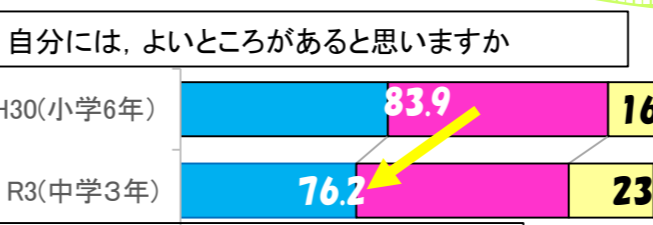
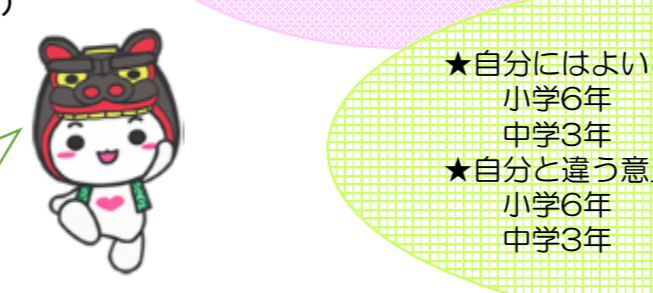
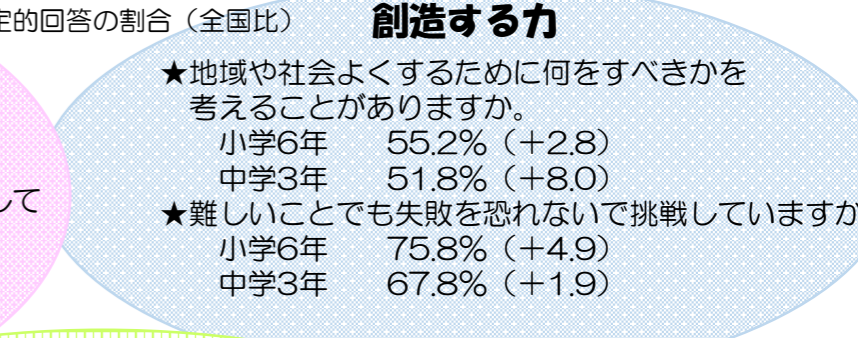
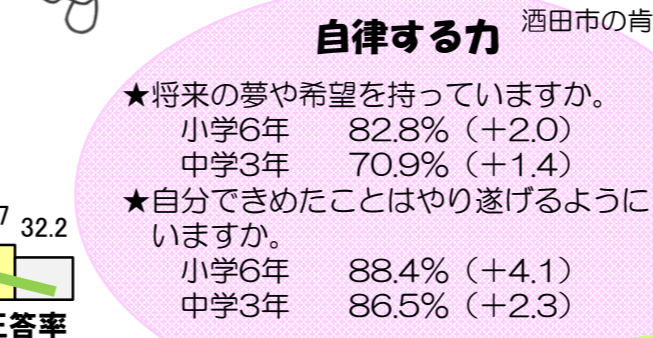
### 5 児童・生徒に関わることについて

酒田市ではつけたい力を右の図のように表しています。



「葉の力」「幹の力」「根の力」とはどんな力なのかを裏面にて今回の問題を例に説明しているので読んでください。

酒田市の子どもの「根の力」はしっかり育ってきています。



小・中学校ともに肯定的な回答の割合が全国平均より高くなっています。本市の児童・生徒は「地域に貢献しよう」「失敗を恐れず挑戦しよう」「自分で決めたことはやり遂げよう」の項目では、特に良さがみられました。とても素晴らしいことです。自尊心や夢や目標に関しては、中学3年時には、小学6年時よりも下がる傾向にあります。達成感や挑戦する心を育てながら、夢や目標を持てる子どもを育てていきたいですね。

※ 全国学力・学習状況調査は児童生徒の学習状況を把握・分析し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。調査結果は学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

# 小中一貫教育を進めるとこんなことができるかも？

令和3年11月8日

## 1 小中一貫教育の中核（大前提）

- ① 9年間を見通した学校教育目標を設定すること。
- ② 系統性及び連続性を強化したカリキュラムを編成及び実施すること。



## 2 小中一貫教育の効果を高めるための取組事例

小中一貫教育の展開に伴い、小学校と中学校が別々の組織として設置されていることに起因する様々な制約を解決又は緩和する取組みを実施することで、子供の学習保障に係るセーフティネット機能の発揮や、小学校段階と中学校段階の段差を適切にデザインする等の効果が期待できる。

「小中一貫した教育課程の編成・実務に関する手引」（文部科学省 平成28年12月26日）に記載されている小中一貫教育の効果を高めるための取組事例のうち、教職員以外の一般市民が比較的イメージしやすいと考えられる取組事例について、その主なものを以下に一覧化する。

No.	取組事例	補足
1	学年段階の区切りの工夫	小学校を低学年・中学年・高学年に区切る、あるいは小6中3で区切るだけでなく、子供の発達段階等に応じた一定の区切りを設けようと考えた場合、例えば指導上(指導の目標共有等)は便宜的に9年を4-3-2と区切り、それぞれに重点を決めて指導体制を検討するなどすることが可能に。
2	新教科等の新設・独自教科の設置	文科大臣指定による特例制度の活用により、独自の強化等を設定でき、例えば、小中一貫の軸となる独自教科等を検討することが可能。
3	指導内容の入れ替え・移行	小学校及び中学校各教科等の内容のうち相互に関連するものの入れ替えが可能。 ・例えば小学校低学年段階からアルファベットや単語指導 ・例えば基礎学力保障や学力内容の定着を重視した取組と併せて、負の数や文字を用いた式の指導を小学校高学年に移行
4	9年を通すからこの指標	学力のみならず、例えば「仲のよい後輩がいる」「あこがれる先輩がいる」割合なども評価指標として意味をなす可能性があり、学校評価の物差しが多様化できる。
5	学習規律・生活規律の共通化	例えば、チャイム着席・机上の準備、離席のルール、忘れ物報告のタイミング、名前の呼び方、ノートの取り方、学校に持ってきてよいもの、清掃の方法、靴箱の使い方など、小中で共通化することで、小と中の段差をコントロールすることができる。
6	異学年交流	・小学校と中学校の合同授業、総合的学習の異学年実施（例：中2と小4など） ・中学校行事への小学校の参加（合唱コンクールなど） ・小学校の陸上競技等における中学生の指導参加
7	部活動・クラブ活動の交流	・小学校高学年の中学校部活見学の機会増や練習参加などの機会設定 ・中学生の小学校のクラブ活動へ参加、協力又は支援
8	児童会・生徒会の交流	・小中合同での児童会・生徒会活動及び運営
9	教員相互乗り入れによる学び直し	例えば中学校において小学校教諭による希望者を対象とした既習事項の補修の実施をするなど、学び直しの機会を確保することができる。
10	小学校での教科担任制の導入	例えば小学校高学年で教科担任制を(少しでも)経験する機会を設けることで、小と中の段差を適切にコントロールすることができる。
11	中学校授業体験と他校交流	例えば複数の小学校の6年生が中学校に登校し、学校を超えてクラス編成を実施したうえで、ALTによる英語の授業をうける機会を定期的に設けるなどができる。
12	評価（テスト）方法の一部共有	単元終了後記憶の新しいうちにテストが行われる小学校と、定期試験としてまとまった学習内容を復習しなければならない中学校との差の大きさを緩和するため、例えば小学校高学年から一部定期試験的な評価（テスト）方法を導入することができる。
13	学校運営協議会の合同開催	一体的な教育課程の編成等学校運営に関する基本的な方針を承認する手続きの明確化する組織を作るなどの工夫が可能。
14	教職員の併任	小学校及び中学校の教員を併任させることで、一体的なマネジメントを可能に。
15	P T A 組織等の一本化	例えば中学校区を単位とする P T A 組織への一本化は、小中両方の情報を保護者が共有できる体制を作るとともに、組織スリム化による保護者負担の軽減が図れる。

※なお、それぞれの事例については、教員の小中一貫教育に関する理解の浸透度等や諸般の時季を見ながら実施が適当か又は実施時点で効果があるか等を検証して判断する必要があることに留意。